



BUSINESS REPORT

第**17**期 株主通信

2013年4月1日 ▶ 2014年3月31日



トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ブイ・テクノロジーは、FPD(フラットパネルディスプレイ)黎明期の1997年にFPD装置メーカーとして設立され、独自の経営手法と技術でお客様のご期待にお応えする製品を卓越したスピードで開発・製品化してまいりました。現在では、FPD製造に必要な不可欠な検査関連装置(検査・修正・観察及び測定装置等)と製造関連装置(露光装置、OLED*1製造装置等)を数多くリリースしております。

当社グループの関連するFPD市場では、これまで延伸されていたテレビ向け大型液晶パネル並びにスマートフォン及びタブレット端末向けの中小型液晶パネルについて、主に中国において新設ライン用設備投資に向けた動きが見られたほか、OLED関連の新たな設備投資計画にも動きが見られました。

このような環境の中、検査関連装置については主に中国向け案件での商談成約に向けた活動を、露光装置及びOLED製造装置等については国内外のパネルメーカーへ拡販活動を行ってまいりました。また、2013年10月には、オムロンレーザーフロント社からTFT*2基板やフォトマスク*3修正に必要な不可欠なレーザーCVD*4技術を用いた修正装置事業を譲り受け、検査関連装置のラインナップ強化を図りました。

受注金額は、主に中国向けの検査関連装置の受注、中国・国内・台湾向けの露光装置及びOLED用装置の受注、国内外向けの関連消耗部品及びメンテナンス等の受注により、133億7千7百万円(前年同期受注金額73億7千9百万円)となりました。なお、受注残高は65億6千6百万円(前年同期受注残高64億5千2百万円)となりました。

この結果、売上高は132億6千3百万円(前年同期売上高36億6千2百万円)、営業利益は5億5千1百万円(前年同期営業損失は11億4千2百万円)、経常利益は4億5千2百万円(前年同期経常損失11億5百万円)、当期純利益は2億3千6百万円(前年同期当期純損失8億3千4百万円)となりました。

配当につきましては、配当方針に基づき、据え置きとさせていただきます。

FPD市場の新興国へのシフトと普及が同時に進行する中で低価格機種においても高性能なパネルが要求され、パネルメーカー各社においては、課題解決に向けた様々な取組*5が続いています。

当社は、お客様の課題解決に迅速に貢献すべく、技術開発の強化や事業譲り受け等による外部技術取り込み等によりソリューション力の強化・拡充を進めてまいります。加えて、新事業開拓に向けた次世代基盤技術の開発を大学研究機関等と積極的に進めてまいります。

これからも引き続きご期待くださいますよう、また一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶と代えさせていただきます。



代表取締役社長
杉本 重人

*1. OLED:有機ELディスプレイ。

*2. TFT:Thin Film Transistorの略。ディスプレイ画像の最小単位は(サブ)ピクセルと呼ばれています。ディスプレイの映像は(サブ)ピクセルを一つ一つの明暗を制御して創りだされています。トランジスタは(サブ)ピクセル毎に形成され、明るくしたり暗くしたりするスイッチの役割を果たします。

*3. フォトマスク:TFT、CFなどの画素パターンが描画された原板。

*4. レーザーCVD(Cheical Vapor Deposition:化学気相成長):TFT(薄膜トランジスタ)等の製造工程で基板上にシリコン等の薄膜を数μmサイズで局所的に形成する工業的手法です。

*5. 様々な取組:「割れない」、「軽量」、そして「折りたためる」といった特性を持つOLEDを用いた次世代ディスプレイの開発や、画質向上と生産性を両立する「光配向」を用いた製造プロセスの導入等、パネルの差別化や低価格化に対応する取組のこと。

オムロンレーザーフロント社からのTFT修正装置事業譲り受け

修正装置*1とは、液晶パネル製造工程で発生した欠陥*2を修正し基板を良品化する装置です。2011年以降、4K(3840×2160画素)テレビの市場が急速に拡大し、4Kテレビ用液晶パネルの増産に対応する設備の増設や製造ラインの立上げが相次いで行われています。4Kパネルの生産は、画素数が従来型テレビ用パネル(1920×1080画素)の4倍あるため生産が難しく*3、修正装置への期待はさらに高まっています。

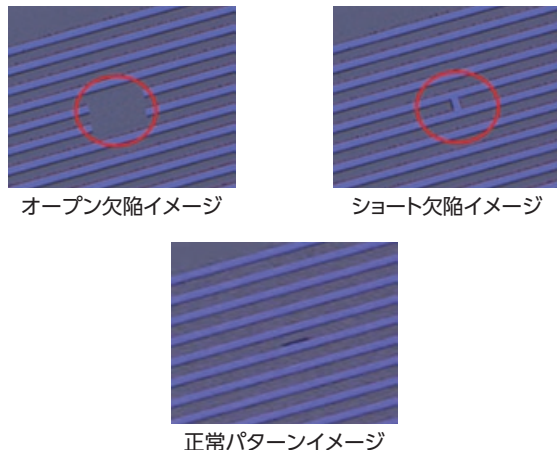
修正装置市場は、主にCF(カラーフィルター)基板用、TFT(Thin Film Transistor)基板用の2つからなります。当社は、従来からCF修正装置事業に注力しており、CF修正装置「Jupiter」は、100%近いシェアと1000台を越す納入実績を実現しています。このたび、TFT修正装置事業へ進出する為、2013年10月1日にオムロンレーザーフロント社(以降、OLFT社)からの事業譲り受けを決定し、TFT修正装置「Taurus」が新たにラインナップに加わりました。この装置は、欠陥修正能力、信頼性、操作性等の点でお客様から高い評価を得ており、累計納入実績はOLFT社での実績を含め600台を超えています。TFT分野への進出が本格化することで、修正装置市場でのシェア拡大と顧客との関係がより強化され、売り上げ増と収益安定化が見込まれます。

ブイ・テクノロジーは、自社技術によるイノベーティブな製品の開発に加え、事業譲り受け等のM&Aによる外部技術の導入により、今後も引き続き事業拡大に積極的に取り組んでまいります。ぜひ、ご期待ください。

*1(写真)TFT修正装置 Taurus 外観

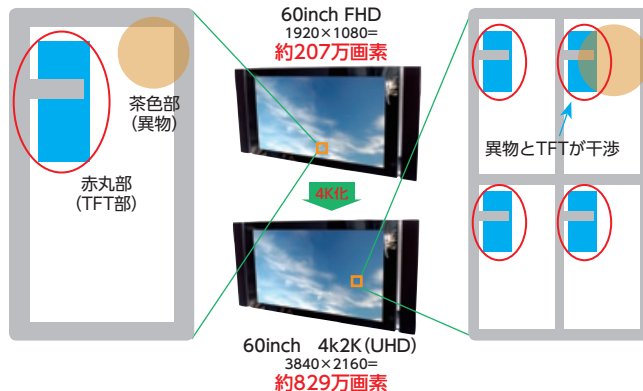


*2(図)欠陥イメージ



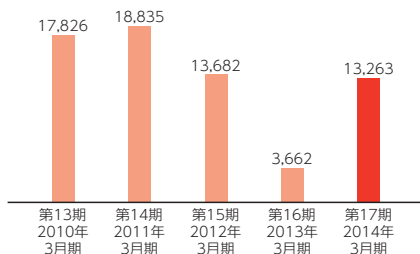
液晶パネル生産工程において各種基板を製造する際に、上図のような欠陥が発生することがあります。オープン欠陥とは、配線パターンが途中で切れている個所のことです。また、ショート欠陥とは、配線パターンが間違っただけで繋がっている個所となります。このような欠陥を修正し、基板を良品化するのが修正装置の役割です。

*3(図)異物が、従来型テレビの画素(左)と4Kテレビの画素(右)に与える影響の違い(イメージ)

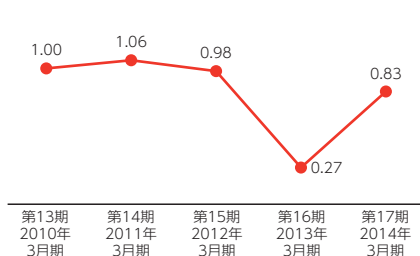


ディスプレイには画素を制御するTFTが形成されています。製造工程で発生するTFT周辺の異物は、画素欠陥の原因となります。従来型テレビより4Kテレビの方が画素密度が4倍ある為、TFTと異物が干渉し易く、4Kパネル生産の課題となっています。

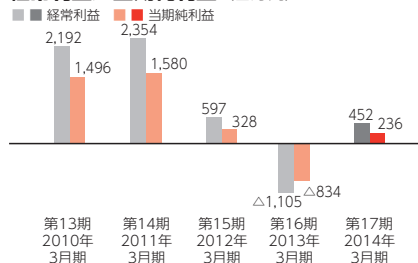
売上高 (百万円)



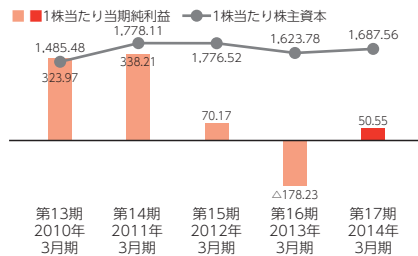
総資本回転率 (回)



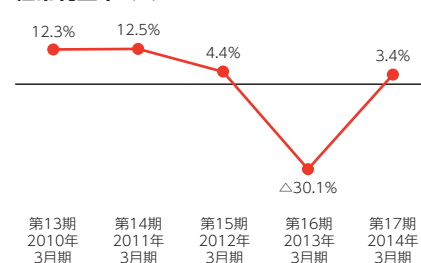
経常利益/当期純利益 (百万円)



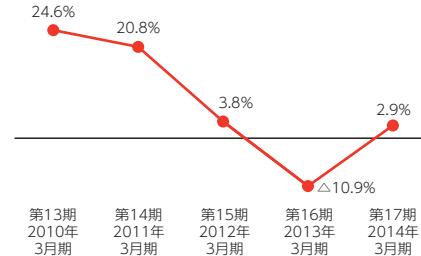
1株当たり当期純利益/1株当たり株主資本 (円)



経常利益率 (%)



ROE (%)



(注) 1株当たりの情報については過去に遡って株式分割等に伴う調整計算を行っております。

● 2015年3月期 (第18期) の業績見通し

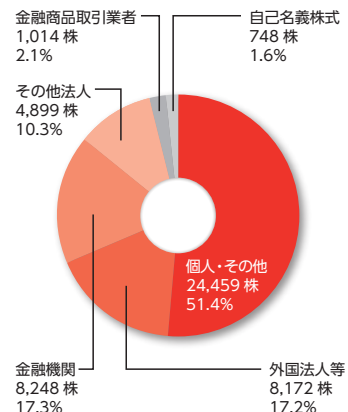
	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり当期純利益 (円 銭)
業績予想	21,000	2,300	2,250	1,200	256.45
(ご参考) 前期実績	13,263	551	452	236	50.55

フラットパネルディスプレイ市場は、主に中国でスマートフォン及びタブレット端末向けの中小型液晶パネルの設備投資、テレビ向けの大型液晶パネルの設備投資並びに有機ELの設備投資が見込まれており、前期実績を大幅に上回る見通しとなっております。

※業績見通しについては、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいております。予想にはさまざまな不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素により業績予想とは異なる場合があることをご承知おき下さい。

株式の状況 (2014年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 175,903株
- 発行済株式総数 47,540株
- 株主数 5,811名
- 株式所有者別分布



Stock Information

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
杉本重人	5,613株	11.8%
三菱商事株式会社	4,099株	8.6%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,095株	6.5%
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン アズ エージェント ビー・エフ・アイ・エム・アイ・エス・イー・イー タッチ ベンション オムニバス 140016	1,432株	3.0%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,344株	2.8%
ジェー・ピー・モルガン・チェース・バンク 385181	1,107株	2.3%
KGI ASIA LIMITED-CLIENT ACCOUNT	696株	1.5%
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	661株	1.4%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	500株	1.1%
ドイチェ・バンク・アーゲー ロンドン ピー・ピー・ノントリティー クライアנטツ 613	432株	0.9%

当社は自己株式748株を保有しておりますが、上記から除いております。

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
 - ・ 期末配当金 3月31日
 - ・ 中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・ 同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL：0120-232-711（通話料無料）
 - ・ 同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所（証券コード 7717）
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <http://www.vtec.co.jp>
- 株式の分割 単元株式制度採用に伴い、平成26年3月31日(月)を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主が所有する普通株式を、1株につき100株の割合をもって4月1日付で分割いたしました。

(ご注意)

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT



会社の概要（2014年3月31日現在） Company Profile



社 名：株式会社ブイ・テクノロジー
設 立：1997年10月16日
本 社 所 在 地：横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPイーストタワー9F
TEL：045-338-1980 FAX：045-338-1781

役員

代表取締役社長	杉本重人
専務取締役	梶山康一
取締役	和田正
取締役	勝原隆

常勤監査役	大倉修和
監査役	吾田啓一郎
監査役	住田勲勇

海外拠点

